

加賀家文書歴史講座のお知らせ

今年度の講座は入門編として「加賀家文書」の歴史的背景やその特徴的な事柄についてお話しします。館内の見学解説もあわせて行いますので、ぜひ、ご参加ください。

- 日 時 平成22年2月27日（土）
午前11時～12時
- 場 所 附属施設加賀家文書館
- 内 容 「加賀家文書」とは
別海町郷土資料館 主任 石渡 一人
- 募集人員 20名程度
- 参加申込先 電話・FAX・メールにてお名前と
電話番号をお知らせください。
2月26日（金）まで受付します。当日参加も可能です。
（連絡先は裏面にて）



ふるさと講座・自然系 + 歴史系

オジロワシ・オオワシ観察会と 古代竪穴住居跡をめぐる！

オジロワシ・オオワシを主に観察しますが、春の渡りの季節で、たくさんの鳥たちが観察できると思います。また、観察地に隣接する古代の竪穴住居跡（約千年前）をめぐるみたいです。ぜひ、ご参加ください。

- 日 時 平成22年3月14日（日）
午前9時～12時
- 場 所 風蓮湖・走古丹方面
- 講 師 自然系－別海町郷土研究会 会長 渡辺 昇 氏
歴史系－別海町郷土資料館 主任 石渡 一人
- 集 合 郷土資料館へ9時までに集合
観察場所への移動は、当館で送迎しますが、
自家用車での移動もできます。
- 定 員 15名（電話・FAX・メールにて氏名・電話番号をご連絡ください。）
- 持 物 双眼鏡・図鑑（当館で若干貸出しします。）長靴を着用ください。



近世の別海を語る「ニシベツ」～その3～

●松前藩復領時代 文政4年(1821)～安政元年(1854)

松浦武二郎らによる蝦夷地の詳細な記録が登場し、「ニシベツ」の様子はさらに詳しく記述されるようになります。

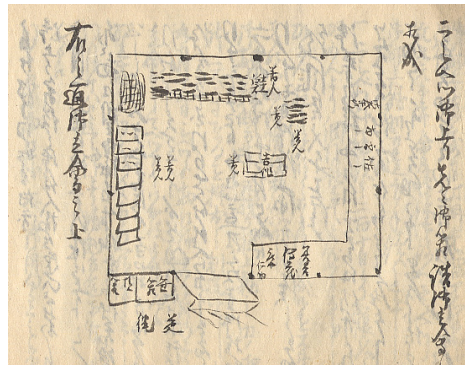
・「ニシベツ…此処丑寅向に而沙濱。風景よろし。岡の方楸の木立。番屋有。北には雑樹草深し。平山ツベキの元ニ建たり。土地肥沃にして野菜もよく出来るなり。非常御備米(蔵脱)弁天社。番屋子モロ持也。番人出張する。エトロフ、クナシリ勤番止宿所ニなる也。子モロ勤番は春秋二季見廻り有レ之候事。前二川有。巾三十間斗。夷人小屋五、六軒有り ニシベツ訳而 此処公料のせつニ耕物いろいろ御試ミ有しニ、大こん、茄子、隠元豆よろしと… 土産 秋味鱒、鯛、比目魚 カスベ 其外雑魚多し」

『初航蝦夷日誌』〔弘化2年(1845)の記録〕松浦武二郎

※この記録では、大根やなす、いんげんなどの栽培を試みたことが書かれています。

・「ニシベツ、砂濱、漁同様、(鱒・鮭)御上り製造蔵一棟、出張小屋二棟、蔵七、稻荷小社一字」

『村垣淡路守公務日記』安政元年(1854)



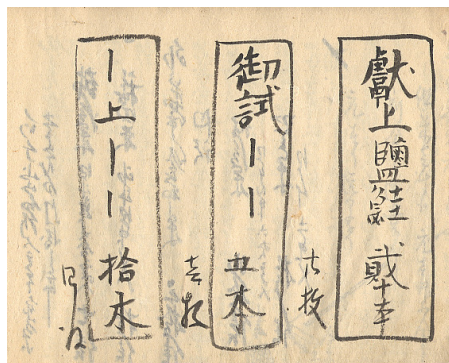
※西別川をはさんで北側はベツカイと呼ばれ、アイヌの住居などもありましたが、ニシベツは漁番屋、特に献上鮭製造に比重が置かれていたようです。

●幕府再直轄時代 安政2年(1855)～慶応3年(1867)

幕府の蝦夷地再直轄に伴い役人の蝦夷地調査が多くなり、ますます当地方の様子がはっきりしてきます。これらの文献史料は、細かい違いはあるものの、ほぼ同様な事柄が記述されています。

・「ニシベツ丑子向 鮭漁場 巾拾間 長二百間程 此所は鮭漁有之秋果漁中子モロ会所より支配人通詞番人漁方等詰漁業仕候 七八丁程沖より壱里程沖迄辨財船野掛場 六十間目壱尋 六百間目 五尋 千八百間目 八尋」

「ニシベツ川 但巾四拾間程 深五尺程 船渡但干之節は出渡候 右はクスリ領ニシベツ山之下沼より流出流深さ凡そ三拾里ほど流寛します鮭小魚入此れ川之鮭は場所第一之魚にて御献上も此川の魚を以って製造仕候。但右川東の方ニシベツと云 西の方 ベツカイと云う」



「御献上製造蔵 壱軒 横二間半 長三間 同壱軒 出張漁小家 壱軒 横拾七間 長拾二間 子モロ会所持 同壱軒 横三間 長五間 板蔵五軒 雑蔵四軒 稻荷社 壱ヶ所 井戸壱ヶ所 但此所水性宜ベツカイ両持」『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政3年(1858)

※写真資料『加賀家文書』より「加賀屋氏大宝恵」上「御上り鮭仕立蔵見取図」下「付札」献上鮭製造に関する資料です。

別海町郷土資料館だより No.127

発行日 平成22年2月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記 町郷土研究会の「別海町を歩く会」では、月2回風蓮湖動植物調査を実施しています。先日の調査で風蓮湖のオシロワシ・オオワシをカウントしたところ575羽が確認されました。氷下漁をおこなっている付近では、群れをなして餌を待っている姿は、異様な感じで、この地方ならではの風物詩かと思います。(K.I)